

この度、複数の図書館・サービスプロバイダによって新しい図書館の未来を拓く協同イニシアチブ“FOLIO”が発足致しました。

EBSCO 社（弊社）もその一員として、FOLIO の発展・推進を全面的に支援して参ります。

以下に FOLIO からのアナウンスをご紹介します。

FOLIO NEWS RELEASE

www.folio.org

FOLIO™発足のご案内

= 図書館・サービスプロバイダ・開発現場間の新しい関係を構築すると共に
ライブラリ・オートメーションの方向性を再定義し、その加速度的発展を目指す =

FOLIO はベンダー各社後援のもと、図書館の革新や技術の更なる発展を目的とした交流を促す、オープンソース環境を基盤とした新しい形のコミュニティです。

BOSTON — 2016 年 6 月 25 日 —

図書館とサービスベンダーが互いに協力し合うことで、図書館の新たな可能性を探ると共に、関連技術の更なる発展を目指すべく、この度、新しく FOLIO™ を発足させるはこびとなりました。

FOLIO は図書館やサービスプロバイダ、そしてその他関連機関が連携・交流し、開かれた環境のもとライブラリ・オートメーションの方向性を見直す為の基盤を提供します。

そしてそこから、新しい図書館サービスや技術の創出に繋がる交流・パートナーシップが育まれることを願っています。

FOLIO は“*Future of Libraries is Open*” を意味し、業界間の連携を通じた革新と成長、また旧来の資源管理に求められる機能要件を備えた新しい図書館サービスプラットフォーム（以下 LSP）の開発を主な使命としています。

2016 年 8 月には、API ゲートウェイを備えた最初のベース・プラットフォームのソースコードを GitHub 上にて公開予定です。これは API を実際にご利用頂くとともに、開発者からのフィードバックを得る為のテクニカル・プレビューとして位置付けられています。

その後、アプリケーションのコードも随時公開され、開発者・図書館員の皆様にご利用頂けるようになる予定です。なお基礎アプリケーションは 2018 年内（予定）、拡張アプリケーションについてはそれ以降の公開となる見込みです。

EBSCO 社には FOLIO に対する初期投資だけでなく、IndexData 社と共に初期プラットフォームの開発にも多大なご協力を頂き、ディベロッパー同士の仲立ちにおいても非常に大きな役割を果たして頂きました。

EBSCO 社の社長および最高経営責任者である Tim Collins 氏は、我々の活動に高い関心を寄せて

下さっています。

「このプロジェクトは一つの目的の下に、図書館とサービスベンダーが結束することを促し、現在、そして未来の図書館に非常に大きな影響を与えることでしよう。これは、私達 EBSCO 社だけのプロジェクトではありません。もちろん我々はプロジェクトを安定して継続させる為に必要な支援を惜しみません。しかし FOLIO の最終的な影響力は、どれだけ多くの人々が活動に参加してくれるかによって左右されます。幸い、これまでは非常に肯定的な反応を頂いています。FOLIO は、素晴らしい可能性を秘めているのです」

The Open Library Environment (以下 OLE) Partnership は学術図書館・研究図書館が協力して、図書館運営の為にオープンソース・ソフトウェアを構築すると共に、従来の運営方法を見直すことを目的に活動をしています。

◆ 主な OLE 会員 :

- Cornell University Library,
- Duke University Library
- GBV-Common Library Network
- Hbz-Hochschulbibliothekszenrum des Landes Nordrhein-Westfalen
- Lehigh University
- North Carolina State University Libraries
- SOAS-University of London
- Texas A&M Libraries
- University of Chicago Library
- University of Maryland University Libraries

OLE の Managing Director である Michael Winkler 氏は、FOLIO は OLE が目指してきた“新しい図書館サービスの創造”という目的を継続し、更なる高みへ押し上げるものであるとした上で、その成功には“コラボレーション”が重要な要素になると述べています。

「FOLIO という枠組のもと、図書館員、技術者、サービスプロバイダ、そしてベンダーなど様々な立場の方々が共通のビジョンを持ち、一丸となることが出来ます。

そしてよりよいサービスを開発する為に、FOLIO はより優れた個人や、リソースを必要としているのです。ぜひ、このコミュニティに参加して下さい。FOLIO は、図書館テクノロジーをよりよい方向へ変革するものです」

Texas A&M University 大学図書館長であり OLE Board の一員でもある David Carlson 氏は、FOLIO について、図書館システムの開発を大きく進展させるだけでなく、市場のあり方を変え、更に図書館とベンダー間の関係性を変化させる起爆剤になると捉えています。

「FOLIO を通じ図書館とサービスベンダーはそれぞれの互いの強みを活かした真のパートナーシップを構築することが出来るでしょう」

Carlson 氏はまた、FOLIO が持つオープンな可能性について次のように言及しています。

「新たな連携や協力体勢の構築、そして我々図書館が真にユーザ本位のサービスを提供できる可能性——その全てに対して FOLIO は道を開いてくれます。図書館が図書館システムの行く末を考える際、利用者だけでなく、パートナーベンダーや投資家が視野に入ってくるというのは初めてのことです」

極めて早い段階から、マサチューセッツ工科大学(MIT)・国立セーチャー二図書館(ハンガリー)・CALIS (China Academic Library and Information System)などの図書館とBibLibre, BiblioLabs, ByWater, Relais International, SirsiDynixといった組織とサービスプロバイダは館種・業種の垣根を越えて、図書館の革新に関する議論を交わしてきました。

BiblioLabs の Founder & Chief Business Officer である Mitchell Davis 氏も次のように語っています。

「FOLIO は、私たちの日常生活に用いられている他の技術と同等のユーザーエクスペリエンスを構築する道筋を提供してくれます。EBSCO 社のような実績ある企業がイニシアチブを取り、Index Data 社のような技術的基盤を持った企業が関わってくれているということは、図書館と図書館利用者の皆様にとって素晴らしいことです。

もちろん、我々はこのプロジェクトを全面的に支援していますし、プロジェクトに参加することが、我々自身の発展にもつながると感じています」

FOLIO が公開するオープンソースコードは、Apache v2 ライセンスの基準を満たしており、あらゆる個人、組織、もしくは企業に商用その他目的を問わず利用して頂けます。

FOLIO の lead developer 兼 Index Data 社の co-founder of である Sebastian Hammer の言葉を借りれば、「全ての人がコードを所有できる」のです。

「コードの使用に対してより寛容になることで、より多くの図書館やベンダーと繋がる事が出来ます。より多くのベンダーがオープンソース、もしくは無料のアプリケーションを作りたいと願い、それを FOLIO のプラグインとして利用できるようにしてくれたならば、図書館の皆様には非常に多彩な選択肢が生まれることとなります。それがひいては、ベンダーの利益にも繋がるのです」

EBSCO 社とその他ベンダーは、本プロジェクトの成果物を活用頂く為のホスティングサービスを提供し、あらゆる規模の図書館をサポートしていく予定です。

また図書館およびコンソーシアムは FOLIO 製のソフトウェアを自館のインフラに組み込むことで、既存のサービスを深化および拡張して頂くことが出来るようになります。

コミュニティメンバーの皆様は、Apache ライセンスに従って、現在のニーズを満たすための機能改善や統合を行って頂くこともできますし、もしくは FOLIO platform を元に、各キャンパスのニーズに添った全く新しいサービスモデルを構築頂くことも可能です

SirsiDynix の最高経営責任者 (CEO) Bill Davison 氏は、FOLIO のソリューションを組み込んだシステムの構築を含めた、別の形での図書館サポートはできないか模索していたとした上で、こう述べています。

「SirsiDynix は図書館運営もしくは図書館支援について、よく理解しています。私たちには、30 年以上にわたり、世界中の、あらゆる規模の図書館にホスティングサービスと 24 時間 365 日のサポートを提供してきた実績がありますし、また、オープンソース環境下で世界規模のアプローチを行うこともできます。事実、私共の製品である BLUEcloud Library Services Platform

(BLUEcloudLSP) は、開放性を念頭に設計されています。我々と FOLIO は、図書館に更なる柔軟性と選択肢をもたらすことができると確信しています」

FOLIO と SirsiDynix は、ホスティングおよびサポートコンポーネントの連携について、近く検討に入ります。

FOLIOに参加するには：

オープンソース LSP プロジェクトに関する議論は、3月に行われた Code4Lib などにおいて、既に始まっています。世界各国から 1,000 名以上の方にメンバーとして参加しています。FOLIO の活動にご興味がおありの方は下記のような形でご参加頂けます。

- **Functionalist :**
特定のワークフローや、機能に関する知識をお持ちの方
- **Strategist :**
今後図書館技術がどのような形で発展していくかについて見識をお持ちの方
- **Developer :**
コードの生成やプラットフォーム・アプリケーションの開発に携わって頂ける方

賛同頂いた方には、今後開催される会議やワークショップ、オンラインフォーラムなどへの参加をお願いすることがございます。また、ブログや E-mail を通じメンバー間の交流を図ることも推奨されています。

本プロジェクトに参加するには、公式サイト[www.folio.org]からご登録頂くか、もしくは Twitter アカウント[[@FOLIO_LSP](https://twitter.com/FOLIO_LSP)]をフォローして下さい。

FOLIO™について：

FOLIO は図書館、サービスベンダー、開発者やコンソーシアム間の連携を通じて、図書館サービスを再定義し、図書館の将来を拓くことを目指しています。

FOLIO は図書館が今必要としているものを構築し、ベンダーのキャパシティや生産性を高め、また図書館の専門性を深化させることによって図書館を発展させ、その役割を定義し直すことを可能にします。また、FOLIO はあらゆる規模の機関に等しくご利用頂けるオープンソーステクノロジーを創出していくと共に、様々なベンダーによるオープンソースの技術を皆様にご紹介していきます。

FOLIO に関するお問合せは下記までお願いします：

Kathleen McEvoy, Media Relations, FOLIO

kathleen@folio.org

978 223-0438